

◆ ミッション

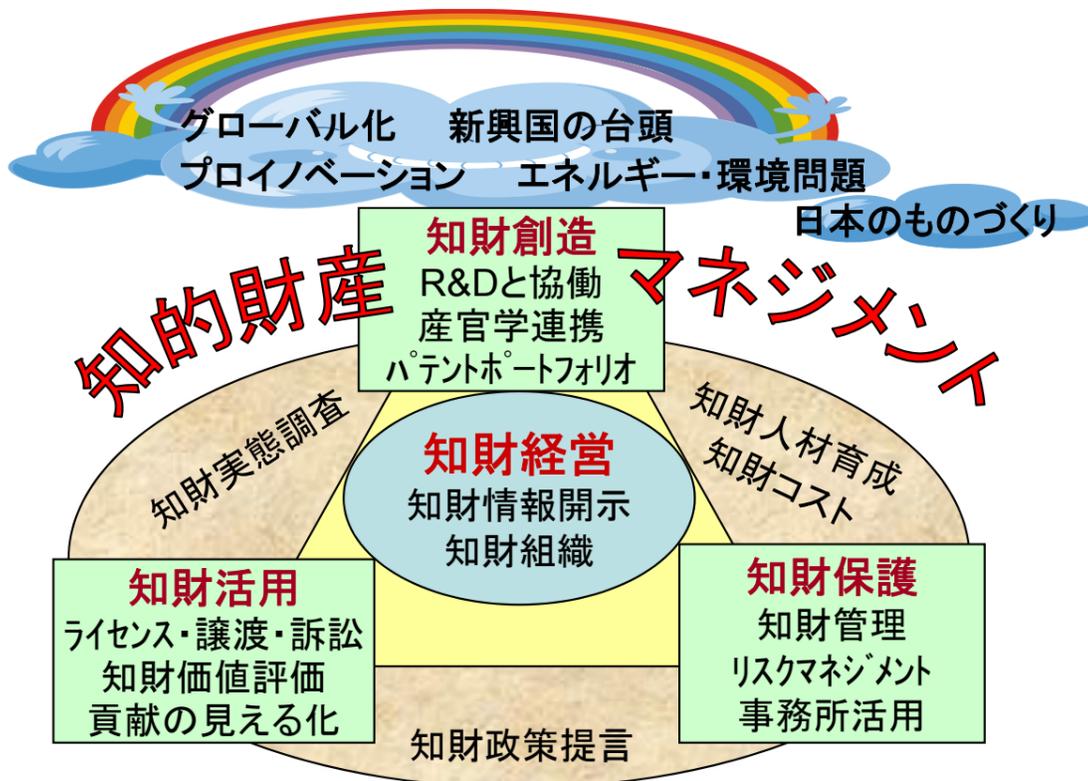
知財マネジメントに関する実践的な調査・研究活動を行い、産業界のオピニオンリーダーとして、国内外に情報・提言を発信する

◆ 2011年度活動方針

知財を取り巻く環境変化を踏まえ、企業の競争優位性を導くために知財マネジメントはどうあるべきかについて調査研究し提言する

◆ 2011年度研究テーマ

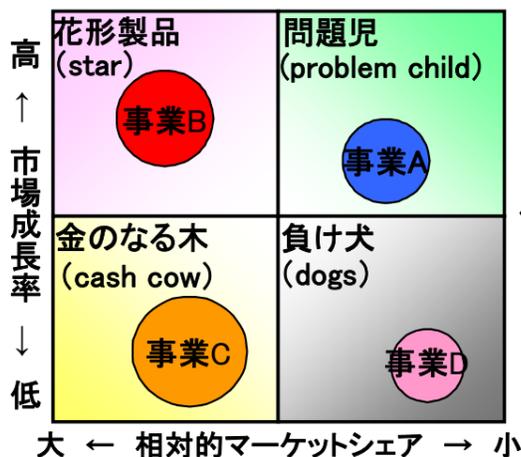
第1委員会	第1: 「知的財産マネジメントの現状分析と今後のあるべき姿についての研究 (三位一体は実現されたか実態調査の分析を含む)」
	第2: 「知財部門に期待される機能と業務範囲に関する研究」
	第3: 「今後の産官学連携における知財マネジメントの在り方に関する研究」
	第4: 「グローバル対応の知財部門の在り方 (日本側での組織、知財活動、人材育成等のあるべき姿の研究)」
第2委員会	第1: 「競争力強化のための知的財産マネジメントに関する研究 (特許以外の知的財産を含む知的財産全体のマネジメントに関する研究)」
	第2: 「海外拠点での知財マネジメントの在り方に関する研究」
	第3: 「グローバル化、オープンイノベーション時代における社内知財教育に関する研究」
	第4: 「知財関連費用の予測と予算策定の方法に関する研究」



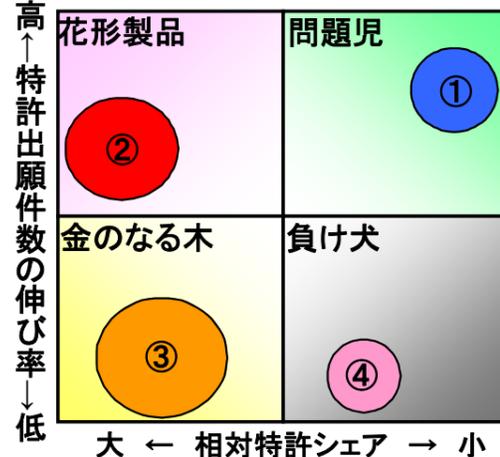
知財創造 経営に資する知財ポートフォリオの研究 (2006年度テーマ)

知財の視点から自社事業を花形製品へ持っていくための意見を提言

事業ポートフォリオ・マトリクス



特許ポートフォリオ・マトリクス



事業ポートフォリオと特許ポートフォリオとの整合性をチェック

事業A (問題児) の提言プロセス例

◎整合性チェック

事業Aに対応する技術分野の特許群が問題児①の場合、事業Aは特許出願件数の伸びから見て注目分野(発展期)だが、自社特許シェアが低く知財リスクが高い

◎知財部門の検討

事業Aのリスク度、特許ポジションを花形製品②に移行する施策(自社開発/ライセンスインやアライアンス)を検討

◎経営幹部の意思決定

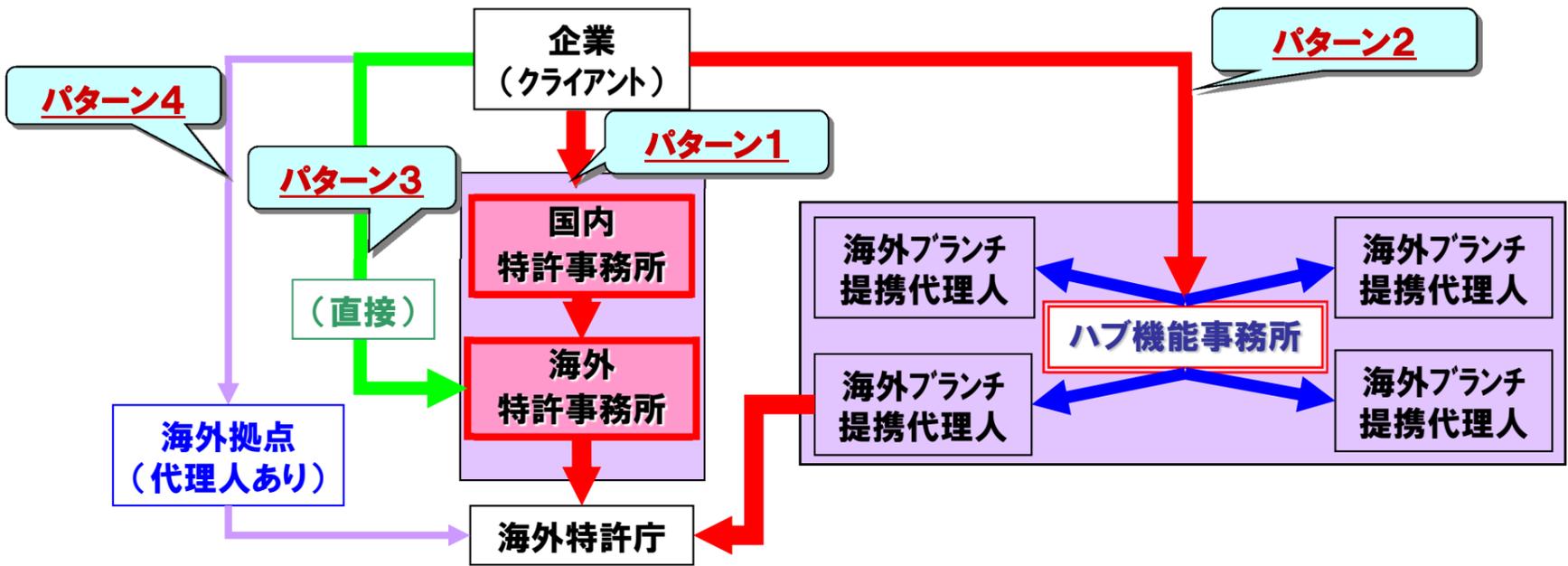
事業Aへの経営資源投入、事業リスク評価、提携などの意思決定の際に知財情報を活用

幹部へ提言

経営判断への貢献

知財保護

海外特許事務所のマネジメント施策 (2009年度テーマ)



パフォーマンス向上を狙うには？	海外事務所に分がある業務は？	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーム用語選択 (適切な動詞の選択) ・Remarks作成 (クレーム構成の差異を中心) ・審査官との質疑応答 	・先行文献の読み込み
	国内事務所に分がある業務は？	<ul style="list-style-type: none"> ・補正の構成要件 (減縮要素) の選択 ・技術的理解に基づく先行技術との相違指摘 ・補正時のサポート要件の指摘、明細書の開示内容に基づく補正案の作成 (明細書のどこに何が記載されているのかは国内代理人の方が詳しい) 	
	どんな情報を提供するとよい？	<ul style="list-style-type: none"> ・自社の特徴/業界の標準技術など ・企業のビジネス/知財戦略/自社製品動向/他社製品動向 ・顧客ニーズ (各案件の対応方針) …広い権利範囲? 早い権利化? 予算? ・発明に係わる基本的な技術の説明 	

知財人材育成

“知財経験のない” 新任知財部門長のための 知財マネジメント (2010年度テーマ)

“知財経験のない” 人がある日突然に知財部門長として就任しても恐れるに足りず
(55%が知財経験のない部門長)

◆永年他の部門の経験＝マネジメント力
社内の“一部門”である“知財部門”マネジメント

◆知財経験≠必要条件
マネジメントは可能！

	知財機能を実現する組織(部門)の マネジメント能力		
	←小		大→
↑小 リ ー ガ ル 的 判 断 力 大 ↓	× (部門長成り得ない)	マネジメント型 知財部門長	アンケートから見えた 経営層が望む 知財部門長
	知財エキスパート型 知財部門長	「マネジメント型」 +「知財エキスパート型」 =「スーパー知財部門長」	
	従来知財部門長に好適と考えられてた領域		

知財部門のマネジメントのための「部門長心得3箇条」

1. 知財戦略と経営戦略の融合を図れ！
2. 部下とのコミュニケーションを図れ！
3. フレーするな！マネジメントしろ！

特許庁でも
話題沸騰!!